東京女子医科大学 八千代医療センター医療支援ニュース

greens（ぐりーんず）

第32号
2023.10 発行

理念：地域社会に信頼される病院としての心温まる医療と急性期・高機能・先進医療との調和

基本方針

- 本学の理念である「至誠と愛」に基づき、皆さまに信頼される病院を目指します。
- 患者さんのプライバシーを守り、一人ひとりの権利を尊重します。
- つねに最先端の医療技術と知識を用いて、安全で良質の医療を提供します。
- 患者さんに合った最善のチーム医療を行います。
- 中核病院として地域の診療所・病院等との連携を推進し皆さまの健康を維持・増進します。

病院長ご挨拶

八千代医療センターの日頃の運営について、ひとかたならぬご支援とご理解を賜り、誠にありがとうございます。

さて、令和２年度から４年度は、新型コロナウイルスという、今までわれわれが経験したことがない病禍に対応しなければならない辛い３年でした。この病禍は、次々と新たな変異株を生み出し、その対応に医療だけではなく、社会・経済や人間の精神面でも、さまざまな混乱と打撃を人々に与えました。これによって、医療供給体制だけではなく、対面での会議、教育や催し物なども影響を受け、自粛をせねばならず、社会構造の変革も余儀なくされるに至っております。

また、更には、来年４月から施行される有史以来初めての「**医師の働き方改革**」を目前に、医療供給体制の見直しを迫られております。

働き方改革を乗り切るためには、月 80 時間の時間外労働の制約をクリアするために強みのある診療科に人的資源を集中させると同時に、自院の診療科の再編成を行わねばなりません。必然的に各病院が温存可能な診療科を選択していかなければ成り立たない時代に入っていきます。千葉県としても基幹病院の働き方改革に対応する解決案として、病院の診療科の選択と人的資源の集中を推し進めていく方針と思われます。昨年来、熊谷知事、八千代市、船橋市、習志野市や鎌ヶ谷市の各医師会、済生会習志野病院、船橋市立医療センターともこの問題について具体的な協議を重ねております。二次医療圏の基幹病院が連合して、病院ごとの診療科の選択と集中を行い、自院の強みを活かしたより広域な医療供給体制を自治体の枠を超えて供給していかねばならない時代がもう目の前まできております。

このような医療の供給体制の大変革期を目前に控えていることをご理解の上、医療センターの将来像やより広域化した医療体制の未来像などの様々なことに、ご助言やご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様方のご多幸とご健勝を心より祈念して 私のご挨拶とさせていただきます。

令和５年 10 月
東京女子医科大学附属八千代医療センター
病院長　新井田　達雄

糖尿病・内分泌代謝内科 教授就任のご挨拶

糖尿病・内分泌代謝内科 教授　此下　忠志

令和５年６月１日付で、東京女子医科大学 八千代医療センター 糖尿病・内分泌代謝内科 教授を拝命しました。

私は昭和 61 年に金沢大学を卒業後、竹田亮祐ご主宰の第２内科学教室に入局し大学院に入学しました。東福要平先生、宮崎良一先生、紺井一郎先生のご指導のもとレニン－アンジオテンシン系に関わる研究で学位を取得しました。その後 Pierre Corvol 教授の主催する INSERM/College de France に留学し、レニン遺伝子転写機構研究に携わりました。帰国後、北陸先端科学技術大学院大学に所属し、当時馬渕宏教授ご主宰の古巣、金沢大学第２内科にて研究を継続させていただきました。平成 12 年から宮森勇教授ご主宰の福井医科大学第３内科にお呼びいただき研鑽を積みました。これまでの期間に、G-DOC 研究と銘打った遺伝子コホート、遺伝子多型と臨床病態、網羅的発現遺伝子解析からの AT4 の抽出等の研究を実施して参りました。同時に、内科学会、内分泌学会、糖尿病学会、腎臓学会、老年医学会、高血圧学会の専門医、指導医を取得しました。この経過の中で自らを修練するにより相応しい施設を模索しておりましたところ、長らくあこがれの大学でありました東京女子医科大学に、ご縁あって採用していただきました。この間、前述来の先生方をはじめ諸先生のご指導・助けが無ければ今日に至ることは無かったものと深く感謝しております。とりわけ山本博先生と中村裕之先生には深謝を申し上げます。

これからも竹田亮祐先生の教え、「自琢（みずからをみがき続ける）」と金沢大学十全同窓会の気概を胸に精進して参ります。先生方には今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

糖尿病・内分泌内科糖尿病療養支援チーム

私達は、東京女子医科大学八千代医療センター糖尿病療養支援チームです。
糖尿病を持ちながら生活する人の療養生活を支えるため、栄養相談や糖尿病教室など様々な生活をしています。皆さんが、自信をもって生きていけるように、必要な知識や技を習得していきましょう。そのために私たちがお手伝いいたします。

当院のチーム活動についてご紹介いたします。

●当院に通院中の方に栄養相談を行っています。（医師の指示が必要です。）
　健康で長生きするために上手に楽しく食べましょう。
●糖尿病の正しい知識と生活の工夫を伝えるために糖尿病教室を開催しています。
●糖尿病を持ちながら生活する人の療養生活を支援します。
　糖尿病で足を失わなようにフットケアを行います。
●糖尿病友の会「アゼリア会」
　情報を共有したり、楽しいイベントに参加したり仲間つくりのお手伝いをします！
　糖尿病情報誌「さかえ」の定期購読もできます。

脳神経内科 診療科長就任のご挨拶

脳神経内科 診療科長　吉澤　浩志

このたび東京女子医大八千代医療センターに脳神経内科診療科長として着任いたしました。北陸の金沢大学を卒業直後から東京女子医大に研修医として入職し、これまで 30 年余にわたり東京女子医大病院本院ならびに関連の二次・三次救急病院、およびリハビリテーション病院にて脳神経内科の診療に従事して参りました。

特に神経心理学および脳画像診断を用いた高次脳機能障害や認知症の臨床・研究に取り組み、2011 年からは米国コロンビア大学アルツハイマー病研究センターで、認知機能の正常老化と病的老化（認知症）について研究して参りました。

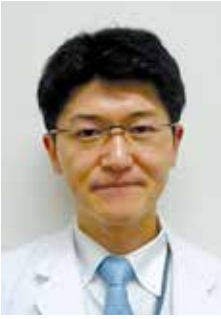
今後当院における診療においては、脳血管障害、神経免疫疾患、神経感染症などの神経救急疾患の入院加療に対応させて頂きながら、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などの慢性疾患の長期外来管理も行っていきます。また、八千代市には脳神経内科専門医がまだ 2 名しかいない現状から、頭痛、めまい、しびれ、てんかん、といったコモン・ディズーズを含めた脳神経に関する症状全般にできる限り対応させて頂きたいと思います。

中でも今後とくに注力していきたいと考えているのは、高齢化社会を反映して増加している認知症（ものわすれ）、高次脳機能障害の早期診断と初期対応、患者会などを通した啓蒙活動です。医師としての立場だけではなく、臨床心理士･公認心理師としての立場も持ちながら、患者さんの心理面のサポートを含めて対応していきたいと考えております。

また、これまで長年にわたる女子医大における脳神経領域教育責任者の経験を活かし、院内・院外の医療スタッフに対する脳神経に関する情報提供および教育活動を通して当院における脳神経系診療の今後の発展に努めてまいります。関連する各部署の先生方、看護・介護の方々、スタッフの方々、地域の医師会の先生方と協力させて頂きながら、八千代市における脳神経に関する健康の増進に少しでも貢献させていただければ幸いです。

脳神経外科 診療科長就任のご挨拶

脳神経外科 診療科長　石黒　太一



アメリカでの修行を終え、７月から脳神経外科科長に就任いたしました。

引き続き患者さんに満足いただける診療を継続していきたいと思います。

当科では脳動脈瘤、もやもや病、頸動脈狭窄症などの脳血管疾患および脳腫瘍、てんかん、顔面けいれんなど幅広い疾患を診療可能です。開頭手術はもちろんのこと、侵襲が少ない脳血管治療も得意としています。患者さんの健康状態、病変の特徴から、どのような治療が患者さんに最適かを一人ひとり綿密に検討し、最善の治療を提案できるよう努めています。

脳神経疾患が疑われる患者さんを可能な限り受け入れ、地域医療に貢献できるよう尽力いたします。

看護部 スペシャリスト会のお知らせ

地域連携ワーキング一同

当院の看護部スペシャリスト会は、エキスパートナース（5 領域、6 名）・専門看護師（3 領域、3 名）・認定看護師（17 領域、24 名）・診療看護師（1 領域、2 名）が集まり、患者さまに専門性の高い看護を提供するための活動を展開しています。今年度は、7 つの活動目標をもとに各ワーキンググループを結成しており、そのひとつに「地域連携ワーキング」があります。今回はスペシャリスト会を代表し、地域連携ワーキングの活動をご紹介させていただきます。

当ワーキングは、当院のスペシャリストと周辺の医療･介護･福祉施設の皆様と協働して、利用者（患者）の方々に専門性の高い看護を提供していくことを目標に 4 年前から活動を開始しました。現在「精神看護、皮膚・排泄ケア、がん性疼痛看護、がん化学療法看護、慢性心不全看護、脳卒中リハビリテーション看護、小児プライマリケア」を専門領域とするメンバー 8 名で活動しており、今年度は“在宅患者訪問看護・指導料 C-005,3（在宅同行訪問）”を算定した同行訪問の運用開始を目指しています。

今年度前期は訪問看護ステーションとの連携を試験的に行ない、“ストーマ周囲のびらん”や、“装具からの漏れへの対処”などのストーマ保有患者に対するケアを中心に 5 件、一緒に対応させて頂きました。連携後には、「ストーマ装具の正しい情報と手技の取得に安心した」「同行訪問によって連携がとりやすくなり今後も相談先があることに助かります」といった温かいお言葉を頂き、地域の皆様に一日でも早く運用開始のご案内ができるようにと、メンバー一同、思いを強くしているところです。

今後は、“在宅患者訪問看護･指導料 C-005,3（在宅同行訪問）”の算定できる「褥瘡」「ストーマ」「がん性疼痛」「化学療法」などの分野の連携体制の整備・運用開始を皮切りに、現在は診療報酬の対象となっていない、その他の専門分野の相談にも応じられるような体制や、様々なデバイスを活用した相談体制の整備などを検討している所です。

ご自宅や施設で療養される方々の看護ケアや介護で困った時に、当院のスペシャリストたちが地域の皆様と一緒に考え、相談し、質の高い看護を一緒に提供する・・・そんな近い未来を思い描きながら、地域連携ワーキングメンバー一同頑張っていきたいと思います！

皆様と一緒に地域で活動できることを楽しみにしています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

お 知 ら せ

ご紹介の際は、紹介状（診療情報提供書）をご用意頂き、事前のご予約をお願い致します。

医療機関からの診察・検査連携のご予約（地域連携直通）

TEL　047-458-6543　　FAX　047-458-6545

受付時間　平日 9：00～17：00 ・ 土曜日 9：00～13：00
※日曜、祝日、第3土曜日、創立記念日（12/5）、年末年始（12/30～1/4）はお取扱しておりません。
※時間外の場合はFAXを送信して下さい。翌受付時間内にご連絡させて頂きます。
※予約日時・医師等の変更を希望される場合は前日までにご連絡下さい。

医療連携マネージャー（医師）

緊急を要する当日（日中）のご紹介は、紹介診療科が定まっている場合は従来通り当該診療科の医師が対応します。
担当診療科の特定がしにくい場合は、「医療連携マネージャー」が電話対応をさせて頂きます。
ご対応は地域連携直通電話の受付時間内とさせて頂きます。

患者さんからの診察のご予約（予約センター）

TEL　047-458-6600

受付時間　平日 9：00～16：00 ・ 土曜日 9：00～12：00
※日曜、祝日、第3土曜日、創立記念日（12/5）、年末年始（12/30～1/4）はお取扱しておりません。
※予約日時・医師等の変更を希望される場合は前日までにご連絡下さい。

やちよ夜間小児急病センター（中学3年生までの小児対象）

TEL　047-458-6090

受付時間　毎日 18：00～23：00
医療相談は行っておりません。ご予約の必要はありません。受付時間内に直接ご来院下さい。

検査連携（医療機関から申込）

検査連携のご依頼は地域連携直通電話の受付時間内とさせて頂きます。
応需検査：CT、MRI（単純）、RI、XP、マンモグラフィー、骨密度測定、セファロの画像検査

東京女子医科大学
八千代医療センター
TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY YACHIYO MEDICAL CENTER

〒276-8524 千葉県八千代市大和田新田477-96
TEL 047-450-6000（代表）
TEL 047-458-6545
入退院支援室 TEL 047-458-6543（直通）